
16 交通マナー

もうイギリスの道を、車で2万キロは走っているだろうか。北の島から南西の「地の果て」まで、遺跡を求めて、平均的なイギリス人よりは、はるかに広い範囲まで、足をのぼしてきた。しかし、幸いなことに、車の運転で恐ろしい思いをしたことは、一度もない。

道には、日本と同じような道路標識が立てられている。制限速度の表示もよく似ており、住宅地は30、郊外は50などという数字が書かれている。だが、この数字の単位は、キロではなくて、マイルだ。だから、普通の車のスピードは、およそ1・6倍ということになる。自動車道では140キロちかくで走るから、100キロなどという、ほとんど徐行という感じがする。それでも、事故は非常に少ないのではないだろうか。

事故が少ない理由はいろいろあるだろう。ひとつは、自転車やバイクがあまりないことだ。それから、郊外では道の両脇が生け垣になっており、人の飛び出しがない。結局は、車主体の道づくりがなされているということのようだ。それから、みんながあまり無理のない生活を送っており、居眠り運転が少ないことも、大きな理由のように思う。通勤電車の中でも、居眠りをしている人にはほとんどお目にかからない。

だが、何より違うのは、運転マナーだ。割り込みなどはほとんどないし、我れ先にと無理な追い越しをすることもまれだ。もちろん、ものすごいスピードで走る人もいる。ただ、普通のスピードで走る人に、ほとんど何の影響も与えずに、ゴーイング・マイ・ウェイで突っ走っていく。ゆっくり走る車に、嫌がらせをしたりすることは、まずない。だから、80歳ぐらいのお年寄りも、マイカーで自動車道を悠然と走っている。

この違いは、いったい何なのだろうか。もちろん、マナーの善し悪しで説明するのは簡単だ。では、何がマナーの差をもたらしているのだろうか。イギリスの人に、この説明を求めると、人間の成熟度の違いという答えが返ってくるようだ。つまり、割り込んで人を押しのけたり、無理な追い越しをして変な優越感を味わったりというのは、たいへんに子どもじみた態度で、社会的に成熟

していないからだという。たしかに、窓口で切符を買う際に、複数の窓口があっても1列をつくり、順番に整然とあいた窓口へと分かれていくイギリスのシステムは、たいへんに成熟したものを感じる。逆に、いくつかの開発途上国で経験したことだが、窓口に人が群がり、我れ先にと力づくで手を伸ばす光景をみると、エネルギーをぶつけ合いながら、生き抜いていかなければならないきびしさのようなものを感じる。未成熟と言ってしまえばそれまでだが、それだけで割り切ってしまうのもどうかという気はする。

しかし、やはり運転マナーに関しては、いったんイギリスの運転に慣れてしまうと、残念ながら、日本は、いささか幼稚と言わざるを得ないような気がする。私がイギリスに来て快適だと思う分だけ、おそらくイギリスの人は日本で運転をして、ストレスをためているのだろう。そして、これは、あくまでも車の運転に限ってのことだと、自分を説得しようと努めるのだが、マナーに関する多くのことに共通しているのではないかという恐れを頭の中からぬぐい去ることが、どうしてもできないでいる。けっして未成熟な人間集団というレッテルを、自らに貼りたくはなく、競争社会の産物であるとか、車が多すぎるせいだとか、理由をいろいろ探してはみるのだが、先ほどの開発途上国の例を見ると、私たちもそうした習慣を残しているのだろうかと感じないわけにはいかないような気がする。